



講演する工藤さん

## JOMON世界遺産登録へ

NPO法人つがる縄文の会(川嶋大史理事長)による「JOMON亀ヶ岡文化フォーラム2019」が2月23日、松の館で開催され、市民ら約120人が縄文遺跡群の世界文化遺産登録への機運を高めました。この日は、県文化財保護審議会委員の工藤竹久さんが「縄文遺跡の魅力と応援のかたち」と題して、是川石器時代遺跡(八戸市)発掘・保存の歴史や「是川縄文館」を拠点とした市民ボランティアの活動などを紹介。工藤さんは「活動の拠点づくりがうまくいくと、支える人が自然と集まってきて物事が動いていく」と話していました。講演に先立ち、市教育委員会の羽石学芸員が、最新の動向などを報告。遺跡周辺の景観保全に取り組むことなどを説明しました。

## 市内初、コメでグローバルGAP

車力町の農家・工藤三千輝さんが2月6日、農産物の安全性に関する国際規格、グローバルGAP認証を取得しました。

工藤さんは「これからはこだわりあるコメを作らないと売れない」という思いからGAP取得を志し、昨夏から本格的に始動。安全管理など約200の国際基準をクリアし「まっしぐら」や「あさゆき」を作付けする約3haが認められました。

2月26日、福島市長を訪れた工藤さんは「GAP取得で海外や国内大企業に売り込める条件が揃った。県産米というくくりではなく、つがる市のコメをどんどんアピールしていきたい」と認証取得を報告。福島市長は、「市としても名誉。多くの農家が後に続いてほしい」と期待を述べました。



家族で認証取得を報告した工藤さん(左から2人目)



優良賞に輝いた三橋さん

## 縄文人のおしゃれのヒミツ

全国の児童から大人まで10万点を超える応募があった「図書館を使った調べる学習コンクール」で、優良賞154点の中に、瑞穂小学校(佐々木真校長)6年の三橋春歌さんの作品が見事選ばれ、3月5日小学校で表彰式が行われました。

三橋さんは「市立図書館アクティブ・キッズ・クラブ」に参加し、縄文文化を自ら学びPRしたいとの思いで「縄文人のおしゃれのヒミツ」をテーマに、図書館での文献調査や田小屋野貝塚・三内丸山遺跡などでの現地調査を通じて長期間に渡り夜遅い時間や夏休みを「調べ学習」に費やし、作品をまとめあげました。三橋さんは「調べるごとに興味が深まった。今後も気になったことは図書館で探したり研究したい」と意気込んでいました。

## 交通安全活動に尽力

長年にわたり交通安全活動に尽力したとして、木造交通指導隊副隊長の小笠原勝榮さんが、全日本交通安全協会から交通安全栄誉章「緑十字金章」を贈られました。

小笠原さんは、昭和43年の交通指導隊入隊以来、50年にわたって小中学校の通学路に立ち児童・生徒らの交通指導に従事。市内の交通安全運動にも率先して参加するなど、献身的に地域の交通事故防止に取り組んでいます。

2月23日、つがる地球村で受賞祝賀会が行われ、市内の交通安全関係者らが小笠原さんを祝福。小笠原さんは「とても光栄なこと。これを機に若い人たちが交通指導隊の活動に興味を持ち、入隊してくれればうれしい」と話していました。



交通指導隊の制服に身を包んだ小笠原さん

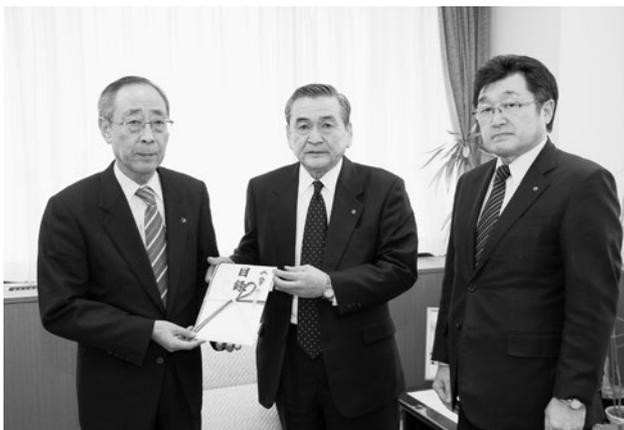
## 自慢の凧青空高く舞い上がる

稲垣凧の会(横山勇一会長)主催のつがる市稲垣凧揚げ大会が3月10日、岩木川河川公園で開催され、県内外の35団体300人が腕前を競い合いました。競技は凧の大きさや形で6つのクラスに分かれて行われ、凧揚げマナー、安定度、音の鳴りなどを審査します。この日は、雪が溶けきった河川敷に適度な風が吹き好天に。参加者は巧みに糸を操り、津軽凧特有の「ブンブ(凧に取り付ける紙)」を大きな音でうならせていました。

結果は次のとおりです(敬称略、最優秀賞のみ)。  
子供の部:安田惺花(つがる市)、一般A:大高カツ子(弘前市)、一般B:杉山力(弘前市)、一般C:寺嶋年則(弘前市)、団体の部:本郷凧の会(青森市)、創作の部:蒲倉一郎(東京都)



青空に凧を放す参加者



福島市長に目録を贈呈した神専務。右は同社の神栄営業部長

## 児童の安全に役立てて

3月14日、株式会社伊藤鉱業(増田教正代表取締役社長)が市に防犯ブザー210台を寄贈しました。これは、同社の地域貢献活動の一環として平成28年から行われているもので、今年が4回目。ブザーは市内の新入生児童全員(203人)に配布され、登下校時などの安全に役立てられます。

市役所で行われた贈呈式では、同社の神義三専務取締役が「子どもたちの安全のために使ってください」と福島市長に目録を手渡し、福島市長は「今年もたくさんのご厚意に感謝します」とお礼を述べました。葛西教育長は「おかげさまで大きな事故等はないが、いざというときに児童が正しく使えるように各学校で教えていきたい」と話していました。

## 夢は大きく、自らの決断で

3月16日、NPO法人つがる市体育協会の創立10周年を記念して「トップアスリート講演会」が開催され、アテネオリンピック柔道100kg超級金メダリストの鈴木桂治さんが講演。市民ら約350人を前に、自身の柔道人生を語りました。

講演では、大学時代の指導者・斉藤仁先生の強烈な指導や2歳上の先輩・井上康生氏(シドニー五輪金メダリスト)とのライバル関係など選手時代のエピソードを紹介。また、現在日本代表コーチとして取り組んでいる日本の柔道改革などについて講演しました。鈴木さんは「夢や目標は大きく、自分の決断と選択で行動すること。失敗を恥じず、失敗による成長を自覚することが大切です」と話していました。



現役時代を振り返る鈴木さん



健闘を誓った車力柔道少年団のメンバー

## 24年ぶり2回目 柔道の聖地・講道館へ

3月10日開催の第39回全国少年柔道大会県予選会(中泊町体育館)で、車力柔道少年団が団体戦で優勝し、5月5日に講道館(東京都)で開催される全国大会への出場を決めました。

予選会では、1回戦で優勝候補の八戸市柔道少年団に接戦の末の勝利。その勢いでトーナメントを勝ち上がり、決勝までの全4試合を制しました。

3月19日、選手らは坂本豪世監督と共に福島市長へ喜びを報告。主将の横山琉愛さん(稲垣小5年)は「チームの雰囲気は大事に、責任感を持って戦ってきます」と健闘を約束し、福島市長は「講道館の雰囲気を楽しんで試合に臨んでください」と激励しました。